

Vascular Street

特集

福岡大学医学部心臓・血管内科学
三浦 伸一郎 主任教授就任記念祝賀会

2017年5月20日



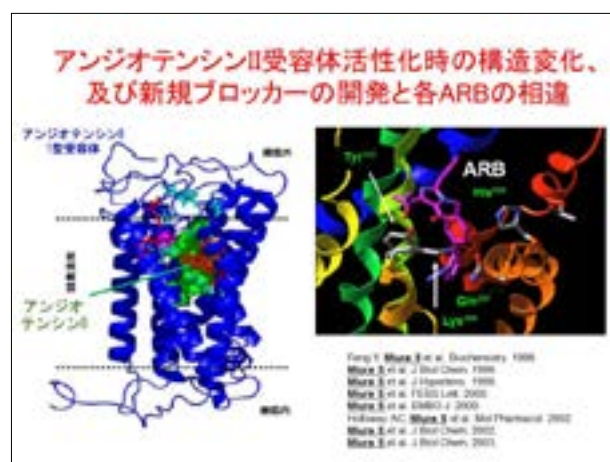
略 歴

- 1988年3月 福岡大学医学部医学科卒業
- 1988年6月 福岡大学病院内科学第二 臨床研修医
- 1994年3月 福岡大学大学院卒業 博士(医学)
- 1994年4月 福岡大学筑紫病院第一内科 医員
- 1995年6月 米国クリーブランドクリニック・ラーナー研究所・分子心臓病学
リサーチフェロー・リサーチアソシエート
- 2002年4月 福岡大学病院循環器科 講師
- 2007年4月 米国クリーブランドクリニック・ラーナー研究所・分子心臓病学客員スタッフ
- 2008年4月 福岡大学医学部心臓・血管内科学 准教授
- 2010年4月 福岡大学病院循環器内科 診療教授
- 2017年4月 福岡大学医学部心臓・血管内科学 主任教授
福岡大学病院循環器内科 診療部長

～ 三浦 伸一郎 教授就任挨拶 ～

2017年4月、福岡大学医学部心臓・血管内科学講座の主任教授および福岡大学病院循環器内科診療部長に就任いたしました。私は、1988年、福岡大学医学部を卒業後、福岡大学医学部・病院勤務および米国クリーブランドクリニック・ラーナー研究所分子心臓病部門への留学にて循環器疾患の診療・研究・教育に従事して参りました。福岡大学病院内科学第二の臨床研修医として2年間勤務した後、大学院へ進み、「高血圧運動療法の降圧メカニズム」にて博士(医学)を取得致しました。その後

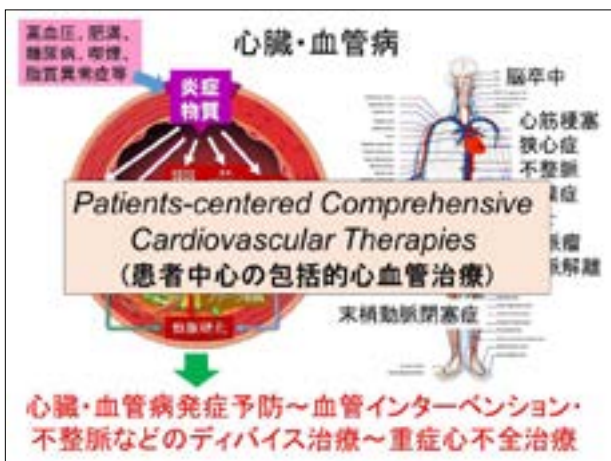
の5年半の留学では、「アンジオテンシンⅡ受容体活性化時の構造変化、及び新規ブロッカーの開発と各ARBの相違」をテーマとして、基礎的研究を行い、帰国後は、様々な臨床研究も実施してきました。今後も福岡大学卒業生として勤務できますことを大変嬉しく思っております。



当講座は、1973年4月に荒川規矩男名誉教授により「内科学第二」として開設され、2000年4月から朔啓二郎教授が主管し、内科学講座の改変より2007年4月に「心臓・血管内科学」と講座名が変更となり現在に至ります。また、福岡大学病院では、「循環器内科」を標榜しています。



循環器内科では、虚血性心疾患、不整脈疾患、末梢血管疾患、弁膜症、心不全、心膜・心筋炎、心筋症、肺高血圧症などの心臓・血管疾患と、冠危険因子の高血圧、脂質異常症、糖尿病、痛風、肥満などの代謝性疾患に対し日常臨床を実施しています。



当科の入院患者の割合は、虚血性心疾患42%、不整脈21%、心不全17%となっています。また、年間の入院患者数は、約1300名、心臓カテーテル検査数は、約1,100件/年、経皮的冠動脈・下肢動脈形成術は約400件/年、急性冠症候群の収容数は約100件/年であり、特に、経皮的形成術はトップクラスの治療成績を誇ります。不整脈疾患では、電気生理学検査を約150件/年、最新治療法を展開するカテーテル心筋焼灼術150件/年、ペースメーカー及び除細動器 (ICD) の植え込み術約100件/年であり、大学病院としては非常に多くの患者さんへ最先端の検査・治療を提供しております。外来診療では、毎

日、必ず4～6名の循環器内科担当医が診療をしており、近隣医療施設からの相談や胸部疾患の救急患者の受け入れにも24時間対応しています。これからも病診連携・病病連携の強化に努め、大学間連携と共に、この3つの連携を中心に、院内でのスタッフ間連携で患者の検査・治療に貢献したいと思っております。



カテーテル心筋焼灼術 冠動脈・下肢動脈形成術

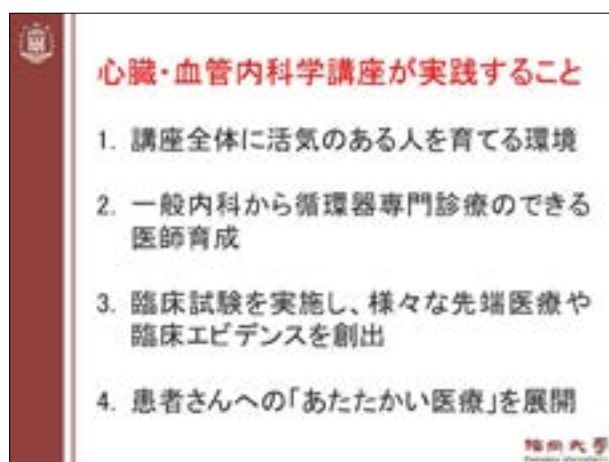
電気生理学検査: 約150件/年	心臓カテーテル検査数: 約1,100件/年
最新治療法を展開するカテーテル心筋焼灼術: 約150件/年	冠動脈・下肢動脈形成術: 約400件/年
ペースメーカー及び除細動器植え込み術: 約100件/年	急性冠症候群: 約100件/年



私の専門領域は、「循環器疾患の一次・二次予防医療」です。最近の循環器疾患による死亡率の推移を見ると、急性心筋梗塞による死亡率は年々減少し、心不全による死亡率が急激に上昇しています。心不全は全ての循環器疾患の終末像であり、5年生存率は40～50%と言われ、がん匹敵する予後不良の病態です。さらに、2025年問題として、「心不全パンデミック」という現象が懸念されています。これは、高齢化で心不全患者数が現在よりも約20万人も激増し、再入院も頻発してくるという現象です。このパンデミックにより、循環器医療への負荷が増大し、破綻の可能性が指摘され、その対策が急務となっています。現在、当科の入院患者中、前述のように心不全の割合は3番目ですが、今後1番となることは間違いありません。そこで、私たちは、6年前より包括的心臓リハビリテーションシステムを早期に構築し、乾式サウナ装置による心不全に対する非侵襲的最先端治療などをはじめとした循環器疾患の再発予防医療に力を入れ、患者さんのQuality of Life(生活の質)を念頭に治療を継続しています。また、当科の心臓リハビリテーションは、開設4年目に全国でわずか20数施設しかない日本心臓リハビリテーション学会が認定する研修施設に指定され、ハイレベルな医療を患者へ提供し、教育や研究も充実しています。



当講座では、一般内科から循環器専門まで診療できる医師育成につとめ、多くの臨床試験を企画し、様々な先端治療や臨床エビデンスを創出し、教室全体に活気があり人を育てる環境にあります。さらに、教室員一同、患者さんへの「断らない医療」を展開しており、今後もなお一層努力して参りますので、宜しくお願いいたします。



Prof. Saku's Commentary

福岡大学医学部心臓・血管内科学および福岡大学病院循環器内科は福岡大学を代表する講座であり、診療科です。その主任教授の役割は多岐にわたります。主任教授によって、講座や医局の方向性はドラスティックに変わります。研究や論文がたくさんでるか、医療収益が上がるか、すべて主任教授で決まります。臨床と研究だけではなく、何より学生教育が大切です。さらに重要なことは医局員教育かもしれません。満遍なく、そつなくこなす、偉大な教授を目指してほしい。三浦教授ならではの教室ができると思っています。多くの競争相手をなぎ倒し、主任教授に就任したのですから、このまま駆け上がってもらいたいのです。この人のアクティビティには素晴らしいものを感じてきました。誰もがわかることです。彼が私の後任に選ばれたこと、一生の自慢にしています。